

平成30年度 学校自己評価 1 学期

中津市立三郷小学校

- 教育目標 自ら進んで、楽しく学び続け 様々な見方をして考えを深め、自分の言葉で発言(表現)し 共に学び磨き合う、最後まであきらめない いつも元気な三郷っ子
- 重点目標
 - ①基礎基本の定着と活用力の育成
 - ②対話力をみがき、認め合う力の育成
 - ③進んで健康な体をつくる子の育成
- 重点目標・達成指標、重点的取組等

評定判断基準	
A	…達成率90～100%
B	…達成率70～ 89%
C	…達成率60～ 69%
D	…達成率60%未満

重点目標	達成指標	達成指標 評定	重点的取組	取組指標	項目 評定	評価	成果と課題、及び次学期(次年度)に向けての取組
基礎基本の定着と活用力の育成	○児童アンケートにより、「自分の考えを説明できた。」と答えた児童を80%以上にする。 ○単元テストで80点以上の児童割合を各学年80%以上にする。	A	学校 ○自分の考えを持ち、伝え合う場のある授業に取り組む。	○毎日1回は、説明の基本形を活用して、ペア・グループ学習で自分の考えを伝え合う場を設ける。	A	A	○どのクラスも算数を基本に国語、理科等で伝え合う場を設定できた。 △児童アンケートで「自分の考えを説明できた(ペアやグループ)」と答えた児童 61% 「自分の考えを説明できた(全体)」と答えた児童56% △単元テストでの達成状況(7月) 国語19単元のうち8単元 算数16単元のうち9単元 ☆ペア・グループ学習は継続して行い自分の考えを広げる質を上げていく。 ☆説明の基本形を研修で見直し、全クラスで教室掲示し、使えるようにしていく。 ☆9月、10月前半は授業研究会の予定がないので、互見授業を積極的に行い、児童の思考や理解を深める授業に努めていく。
			学校 ○子どもの理解や思考を深めるための効果的なICT機器等を活用した授業づくりに取り組む。	○毎日1回は、授業の展開段階でICT機器等を活用することに取り組む。(①わかりやすく説明するため②比較して児童の思考や理解を深めるため)	A		○教師が分かりやすく説明するために、どのクラスも使っている。 ☆児童の思考を深めるためや、児童が友だちに説明する使い方をもってしていく必要がある。 ☆ICT機器等の活用の仕方もまた継続して研鑽を積んでいく。
			家庭 ○家庭学習の習慣化を図る。	○毎日、家庭学習の連絡帳へのサインと声かけを行う。 ○毎月1回「家庭学習チェックシート」に感想を書く。	A		△守れない子が固定化されてきた傾向がある。 ☆家庭学習の習慣化については、守れない子が固定化されてきたので、7月分で洗い出し、個別に担任より家庭と連絡をとり、連携を図る。
			地域 ○学習支援をするために、なかつづくプロジェクト(学習サポーター)に参加する。	○なかつづくプロジェクトで、さまざまな学習活動に参加要請があった時は、積極的に参加する。 ○学校公開日等の行事へ積極的に参加し、学校の取り組みについて感想などを述べる。	A		○1、2年山遊び川遊び ○3年山国大探検 ○5、6年国際交流キャンプで行政、地域、保護者を巻き込んだ行事ができた。
対話力をみがき、認め合う力の育成	○児童アンケートで「児童朝会や遊び集会などで感想を言えた」と回答した割合を70%以上にする。 ○自己評価アンケート(児童・保護者)で「あいさつ+1ができた」と回答した割合を80%以上にする。	B	学校 ○お互いに認め合う集団づくりを行う。	○全校で「いいとこみつけの木」に取り組む。 ○対話力を磨くための「あいさつプラス1」に全校で取り組む。	B	B	○いいとこみつけの葉が全校約350枚。5月の開始時に比べ、2倍に増加。 ○学校であいさつプラス1◎○と答えた児童94%。 ☆児童会や生徒指導担当が「あいさつプラス1」の呼びかけ。「あいさつがんばりカード」の実施。 いいとこみつけをするだけでなく、読む相手がわかるように葉に書く視点も伝え、取り組んでいく。 ☆「いつ、どこで、だれが、どのように」と読む人がわかりやすく意識し、9月から取り組んでいく。 ☆いろいろな相手にいろいろな場所であいさつプラス1ができるよう、レベルアップを図る。
			学校 ○自分の思いや感想を自分の言葉で伝える子どもを育成する。	○児童朝会や遊び集会などで感想発表の場を設ける。	C		○集会で感想発表の機会を設け、継続的に意識づけはできた。 △発表する児童が固定化してきたようにも感じる。 △児童アンケートで「いいところ見つけができた」と答えた児童79%。6月に比べ、実施率は少し下がった。 ○児童アンケートで「感想発表ができた」と答えた児童61%。少しずつであるが増加。 ☆どの児童も発表できる機会を広げていく。(2学期から掃除の終わりに追加) ☆拳手した児童だけ当てるのではなく、学年単位で当てることにより人任せにさせない雰囲気を作っていく。
			家庭 ○家庭内でのあいさつを励行する。	○PTA保体校外指導部会を中心にしたあいさつ運動に学期に1回は参加する。 ○毎日、保護者から名前を呼んであいさつをする。 ○学期に2回「あいさつがんばりカード」に感想を書く。	A		○1学期間で、保体校外指導部の保護者15人全員があいさつ運動に参加。 ○家庭であいさつプラス1◎○と答えた児童87%。家庭であいさつプラス1◎○と答えた保護者91% ☆2学期も「あいさつがんばりカード」の実施。1学期の取り組みの様子や結果を保護者に知らせる。
			地域 ○あいさつ・声かけ運動を推進する。	○登下校時に子どもを見かけたら、あいさつや言葉かけをする。 ○地域での子どもたちの様子について、学校に伝える。	A		・登下校時に見守りを実施。 ・見守り隊の方々にアンケートを実施。 ○26名の見守り隊の方からアンケート回収。あいさつや安全の声かけを続けてきている。 ☆あいさつ面・安全面等、子どもの様子を引き続き学校に知らせてもらう。
進んで健康な体をつくる子の育成	○体カテストの「立ち幅跳び」において、クリア数を50%以上にする。 ○児童アンケートで就寝時刻を意識できる児童の割合を70%以上にする。 ・9:00(低) ・9:30(中) ・10:00(高)	B	学校 ○体育学習や委員会活動を活用した運動の日常化をめざす。	○毎朝、「GM・F(グッドモーニング・フィットネス)」を全校で実施する。 ○授業の始まりに学年の学習内容や発達段階に応じたサーキットトレーニング・エクササイズを毎時間5分間実施する。 ○立ち幅跳びの計測を行う。 ○縄跳び大会を行う。	B	B	○7月の立ち幅跳びの計測において、クリア数が60%になった。 ○毎朝、「GM・F(グッドモーニング・フィットネス)」を全校で実施した成果がすでに出た。縄跳びの効果も大きいと考えられる。特に低学年は顕著であった。 ○立ち幅跳びの評価を意識した取組が、意欲と記録向上につながってきた。 ○水泳の授業でも代わりにのトレーニングを入れた学級もあった。 △サーキットトレーニング・エクササイズを毎時間5分間実施できた学級 2/6学級 ☆計測の仕方が不十分だった学年があったり、特定の学年だけ伸び率が下がったりしていたので、そこを重点的に指導しながら引き続き取り組んでいく。
			家庭 ○自分に適した生活リズムの習慣化を図る。	○毎日、家庭で決めた就寝時刻を厳守させる。 ○毎月、「チェックシート」の保護者欄には、子どもを励ます取り組みの感想を書く。	B		○就寝時間が守れている子が増えた。 ○2年生と5年生は守れている割合が高い。 △他学年は、依然低いまま。(特定の子は依然変わらず) ○個別の対応の成果が現れ始めた。 ☆運動会練習に向けた取り組みを行う。(特に熱中症対策)
			地域 ○学校の体育的行事へ積極的に参加する。	○プール納め、運動会、持久走大会に積極的に参加し、児童を応援する。			・今月、体育的行事がなかった。 ○昼休みにグランドゴルフを地域の方に指導していただいた。 ☆PTAの保体部と協力し、引き続き啓発を行う。